

●今月の法語カレンダー●
迷信に惑わされ 正信を見失うこと なかれ

浄土真宗の『宗風』には、「(略)深く因果の道理をわきまえて、現世祈禱やまじないを行わず、占いなどの迷信にたよらない。」と示されています。占いや迷信は一時的な気休めでしかなく、ますます悩みを深くします。苦しみや悲しみから目を背けるのではなく、それを受け入れる強い生き方を教えてくれるのが正信、すなわち浄土真宗のみ教えです。迷いを迷いのままで終わらせるのではなく、それを本當の教えに出遇っていくご縁として受け止めていくのです。

12月の行事

- 朝の日曜礼拝 毎週日曜朝7時
- 仏教講座会 皆勤・精勤賞授与式 門信徒会忘年会 20日(水) 午後1時半
- 写経会 20日(水) 午前11時
- 納骨堂合同参拝 2日(土) 午前10時 (2F納骨堂にて)

- 雅楽教室 17日(日) 午後3時
- お経サークル 23日(土) 午後3時
- ヨーガ教室 13/27(水) 午後1時
- 婦人の集い お休み
- 築地本願寺「成道会布教大会」 8日(金) 午前10時



平成19年1月の行事

- 元旦会 1日(月)
- 仏教講座会 20日(土)
- 納骨堂合同参拝 6日(土)
- 写経会 20日(土)
- お経サークル 27日(土)
- 雅楽教室 21日(日)
- ヨーガ 17/31日(水)
- 婦人の集い 10日(水)

納骨堂合同参拝

12月2日(土) 午前10時より 法要です。 どうぞお参り下さい。



お願い

★「写経会」では来年度より、「手づくり経本 重誓偈・讚 仏偈」を使用します。 今月の写経会にて注文の確認をしますので、ご希望の方はご参加下さいませ。 お願い致します。 なお、1セット¥900です。

「成道会布教大会」 参拝のご案内

約2500年前、お釈迦さまは29才の時菩提樹の下でお悟りをひらかれました。これを成道といひます。 築地本願寺では、お釈迦さまのお悟りを記念して「成道会布教大会」が行われます。8人の布教使さんのご法話を一日かけてお聴聞させていただきます。 どうぞこれをご縁に仏さまの話を聞かせていただきましょう。皆さまのご参拝お待ちしております。 お申し込みはお寺まで。

【日時】12月8日(金) 午前10時〜午後3時
【整理券】1500円 (昼食付)
【集合】午前8時45分 JR松戸駅構内中央改札口正面の売店前にて (直接本願寺に行かれる方は、本堂前にて9時45分)

築地本願寺報恩講 通夜布教を終えて

平成18年度築地本願寺の報恩講が無事勤修されました。今回私は、初めての通夜布教のご縁をいただきました。

通夜布教とは、宗祖親鸞聖人のご苦勞を偲び、夜を通してのお説教のことです。夜中の12時には、聖人が好まれて食されたという小豆粥が振る舞われます。

午後8時半スタート。1話40分、9名の布教使によるご法話のラリーが朝まで約9時間続きます。朝の4時10分から私の法話当番でした。

夜遅くから朝早くまでのハードな日程にも関わらず、天真寺からは何と10名の門信徒の方々が応援団として駆けつけて下さいました。大変有り難く、心強く思ったことです。

当日は長時間にわたるため、当番の布教使には専用宿泊所が用意されております。私も法話の前に少し眠ろうかと床に就いたのですが、眠れません。布団に入ると、法話の内容が頭から離れないのです。いつもはすぐに眠れる私にとっては、受験生時代以来の苦闘でした。

そんなこんなで、私の番がまわってきました。テーマは「うそとまこと」。私は友人達に「西原の話にはオチがない」とよく言わます。要するに、話下手。しかし、こんな私が大切にされる時があるんです。それは飛行機に乗った時です。なぜだと思えますか。

それは、話のオチがない人。飛行機がオチない。つまり、話に「オチない」私が乗っていれば、飛行機

が「落ちない」から安全だということなんです。時には人生さえ狂わせるような迷信や占いも、実はそんな根も葉もないゴロ合わせであつたりするのです。

人ごとだと、全く笑ってしまふような話ですね。しかし、これが自分の身となると：笑えない。私たちはあやふやなものにしがみつき、ますます苦しみを深くして生きているのではないのでしょうか。それが私たちのすがたであることを、仏さまは教えて下さいます。

悲しみも苦しきも避けられない私たちの人生であります。しかし、その苦しきは苦しみのままで終わらないうのです。決して無駄はないのだよと、どの瞬間にもいのちの輝きを見て下さるのが仏さまの眼です。私たちの外見でも地位でもお金でもありません。今を生きる、そのいのちそのものを

慈しんで下さるのです。 雨の日には雨の日のよさを、晴れの日には晴れの日よさを感じて生きていく道が仏さまの世界です。 緊張で訳が分からなくなっている最中、門信徒の方々の笑顔には励まされました。 何とか皆さんに支えられてお話をできたという感じでした。



その後、ご門主ご親修のお晨朝に参拝し、みんなが築地市場でお寿司を頂いて帰りました。 尊いご縁をありがとうございました。

(若住職・龍哉)

京都つれづれ

京都在住の大叔母（前住職の妹）より、大谷本廟の報恩講「龍谷会」参拝の便りが届きました。これからも時折京都の様子を知らせてもらいますので、楽しみにして下さい。



10月15日
16日は大谷本廟の報恩講でした。実は私、初めてのお参り。「龍谷会」と云うそうです。本廟は東山五条にあり、このあたりは清水焼の集落で、7月には陶器市で賑わいます。

本廟を入ると、入口に池があり亀が浮いたりお昼寝をしたりしていた。池の中央に花崗岩の切石で造られたゆるいアーチの橋（円通橋。安政3年竣工とある）、続いてゆるい石段が、そこ

から進むと両側には三色の幔幕が張り巡らされており、五色の幟が風を受けていた。やがて左手に親鸞さまのお像が大きなお念珠を片手に迎えて下さる。
全国各地からお参りらしく、方言や訛りが飛び交い、会館では納骨の人の長い列、墓参の列、今日のお参りの人々。

お勤めの「明著堂」は、工事中の景色ながら、これはこれでみんなの記憶に残ることでしょう。

お堂は宝永6年、御廟堂の拝堂として創建とあり、正面には本願寺第14代・寂如上人のお筆「明著堂」の額が掛けられ、享保元年とある。

昔の人の字はいいなと思う。三百年前・・・

やがて大師作法が始まり、庭儀（一般にはおねりと云いますが）、それぞれの役目の装束、ありったけの彩色

浄土真宗での先祖供養

（先月に引続き第2回です）

仏壇



お仏壇は御本尊・阿弥陀様を安置するところ。先祖が往った浄土を偲ぶところ。

□阿弥陀様を拝むことは即ちお釈迦様を拝むことであり、先祖を拝むこと。

□お仏壇の中に先祖が入っているのではない。お仏壇を通して先祖と出会う。

□お仏壇は死者のためではなく、生きている私たちのためにある。

□一世帯ごとにお仏壇を安置する（一族にひとつ、ではない）。

□お札・写真は入れない。

お仏壇の購入と「死」に因果関係はない。

□購入する日に良し悪しはない。

新しくお仏壇を迎える時は「入仏法要」。「魂入れ」とか「お性根入れ」ではない。

□ご本尊様を移す時は「遷座法要」。「魂抜き」とか「お性根抜き」はしない。

お飾りは教えの具象化。

□ローソクは光。智慧と慈悲の象徴。

□花はお浄土のかたち。いのちの表現。



□香は仏のはたらき（私たちの努力に関わりなく包みこむ/同じ香にさせる。平等）。

□水は華瓶に櫛を入れて。

で総勢百人位でしようか。

御門主様と新門様だけ大きな藁草履をはいておられる。笙・箏・横笛の音に参詣人も一緒に包まれて晴天の光の中を式次第がすすみました。

中央仏教学院の若い僧達、長時間座らせられ、背を正して聴き入っていました。が、テントからはみ出している学生は、強い陽ざしにさらされ、げんなり顔もいました。

私は浮々して来年もお参りできたらいなと思いつつ、その後天真寺のお墓にお参りして帰りました。

（京都 高山美智子）

活動報告

★23日天真寺「報恩講」が無事勤修されました。午前中には「門信徒会入門

□線香は寝かせる。本数にはこだわらない。

浄土真宗では位牌は使わない。故人の法名は過去帳に記す。過去帳の前に供物はいら

□過去帳への記入は家族の者がするのが望ましい。記入する事項は、法名、俗名、死亡年月、歳。

□他家の先祖も一緒に過去帳に記してよい。

お鈴はお勤めの区切りのために打つ。お勤めをしない時は打たない。



お仏飯は仏様のご飯ではない。

法名

浄土真宗には「戒名」はない。「法名」。

式」が行われ、お経サークルのメンバーがお勤めをして下さいました。

午後からの「雅楽ミニコンサート」は大好評で、また若い布教使さんのお二人は、「ご法話の最中、皆さんの温かい眼差しに助けられた」と今回のご縁を大変よろこんで下さいました。

最後に、一日お手伝い下さった役員の方々、ありがとうございました。



（天真寺の新しいメンバーの皆さん）

□法名とは、
1、法をいただいたりしている者の名前
2、法そのものである名前

□「釋○○」が原則。信士・信女・居士・大姉などの「位号」はつけない。

院号は寺・宗派に貢献してくださった方への記念品。いただくか否かは好みによる。

お知らせ

★皆様にお願ひしました、ビルマの小学生への衣類の寄付は、約40キロ分（段ボール2箱）を現地へ送りました。ご協力ありがとうございました。

★「雅楽教室」がスタートしました。興味のある方のご参加お待ちしております！
今月は17日（日）午後3時からです。